

(様式1)

令和4年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 040	提案機関名 県央家畜保健衛生所
要望問題名 安定的な飼料作物生産技術の開発	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 ここ数年、台風や大雨等による気象現象の極端化等により、自給飼料生産への影響が懸念される。このため、気象条件に左右されない、安定的な飼料作物の生産技術の開発が必要であると考えます。リスク分散化、あるいは当県の環境に適応した自給飼料の生産技術について検討をお願いします。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部企画研究課大家畜グループ
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 不耕起対応高速播種機を活用したトウモロコシ二期作の安定多収栽培技術の開発（平成30～令和元年度）		
対応の内容等	<p>ご指摘のとおり「神奈川県に環境に適した自給飼料生産や気象リスクの分散化」は、今後の地球温暖化を見据えたうえで極めて重要であると理解しています。</p> <p>この課題については、各地域の試験研究機関において既に多くの試験がなされ、例えば、トウモロコシとソルガム栽培を組み合わせた作期分散による気象リスク低減技術を検討した事例などがあります。また、地域の環境に適した自給飼料生産という点では、神奈川県と同じ南西暖地といわれる九州地域において、イタリアンライグラスとスーダン型ソルガムを用いた周年作付体系を目指した事例があります。</p> <p>神奈川県におきましても、温暖化のメリットを生かしてトウモロコシ二期作栽培体系を確立しました。さらに、二期作に用いる品種の組み合わせ方法により作期分散を可能にし、労働力の分散とともに台風リスクの回避が期待できることを確認しています。</p>		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考	参考文献 ・菅野 勉ほか（2021）トウモロコシおよびソルガム類栽培の気象リスク評価に関する一試み 日草誌 66(4) :218-228 ・高井智之（2021）西南暖地におけるイタリアンライグラスの9月播種とスーダン型ソルガムとの周年作付体系を目指して 日草誌 67(1) :32-34		